

平成22年(2010)7月8日

第6回 近畿の環境団体情報交流会 ご報告

環境NPO・企業・行政の協働を考える

～「地球に謙虚に」の精神で、共に考え、共に行動しませんか～

平成22年(2010)6月20日(日)にかしはら万葉ホールで開催しました第6回近畿の環境団体情報交流会は、お陰さまで第1部、第2部、第3部とそれぞれ個別の視聴者もあり、200名に達する参加者を得て、成功裏に終えることができました。

エコネット近畿としても中間支援組織としての役割を果たし、環境に係わる皆様の更なる将来への交流・連携につなげることができたのではないかと思います。

本会の開催にご協力、ご支援頂きましたたくさんの皆さまに、そして当日ご参加頂きましたさらに多くの皆さまに厚く御礼を申し上げます。

NPO法人エコネット近畿 理事長 山本 光二
副理事長 仲津 英治
常任理事 吉田 浩巳

開催概要

開催日時：平成22年(2010)6月20日(日) 11:00～17:00

開催会場：かしはら万葉ホール(奈良県橿原市小房町11-5)

テーマ：環境NPO・企業・行政の協働を考える

～「地球に謙虚に」の精神で、共に考え、共に行動しませんか～

対象：近畿圏で環境NPO/NGO活動をしている方や、企業・行政で環境政策等を担当している方など、環境に興味を持つ広く一般の方々

参加者：200余名

主催：NPO法人エコネット近畿、一般財団法人セブン-イレブン記念財団

共催：NPO法人大和まほろばNPOセンター

後援：奈良県、橿原市、大阪府、京都府、兵庫県、滋賀県、和歌山県、朝日新聞社、日本経済新聞社、奈良新聞社、奈良日日新聞社、読売新聞大阪本社、産経新聞奈良支局、NHK奈良放送局、奈良テレビ放送

賛助：内閣府認証特定非営利活動法人Earth as Mother、NPO法人ええことネット、京都エコエネルギー学院、サンワ・リノテック株式会社、ZIPANG(ジパング)株式会社、辰野株式会社、椿産業株式会社、株式会社ハウズドクター、鉢ヶ峯の自然を守る会、一般社団法人無機質コーディング協会、大和信用金庫

協力：特定非営利活動法人関西環境情報ステーションpico、特定非営利活動法人樹木・環境ネットワーク協会、特定非営利活動法人総合教育研究所、地球に謙虚に運動、パナソニックグリーンボランティア倶楽部、社団法人まちづくり国際交流センター

講演内容

11:15～ 第1部 テーマ別討論会 (11:15～12:30)

◆第1討論会 「自然環境再生」クリーンアップを考える

～河川、湖の清掃・浄化活動を通じて連携・交流と発信～

河川の清掃・浄化活動による環境改善の取り組みの紹介を通じて、コミュニティの重要性や、活動の連携の可能性を探った。

＜コーディネーター：NPO法人エコネット近畿理事長 山本 光二＞

[講師の発表]

■「東大寺庭園池の浄化」

NPO法人地球環境・共生ネットワーク奈良代表、
EMボカシネットワーク奈良代表 後藤 和子氏

河川、湖沼の水質浄化を進める中で、流入する汚水の57パーセントがお米のとぎ汁であり、更に中性洗剤が追い討ちを掛けている現実を知る。主婦の目線から、キッチン周りの身近な水質浄化に取り組むという発想から市民に啓発活動を推し進めた。EM（有用微生物群）を活用した技法を持って、今や東大寺庭園池の浄化に取り組み大きな成果を得るまでになった。今後もEMを活用したやり方で各方面の方々との連携を大切に流域として活動をしていきたい。



第1討論会の様子

■『「ホテル」が飛び交う水環境の創生』

橿原市昆虫館指導主事、NPO法人ASUKA自然塾理事 松本 清二氏

橿原市を流れる飛鳥川における水質浄化の象徴として、身近なホテルを取り上げ、その生態系を深く理解することで自然の素晴らしさを知り、青少年への環境教育に大いに役立ち、その波及効果は街づくりへと発展した。メディアを初め多く



橿原市昆虫館 松本氏

の方々のご知るところとなり、活動の継続は勿論だが、これまでのデータや経験を完結に整理し、自然保護・保全マニュアルの編集制作を進めることとする。

■「桂川クリーン大作戦『綺麗な川はみんなの願い』」

近畿地方整備局淀川河川事務所桂川出張所管内 河川レンジャー

桂川クリーン大作戦実行委員会代表 田子 稔氏

京都府を流れる桂川の美しさや自然の豊かさを紹介、その魅力を財産とし継承することの素晴らしさを説く一方で、ゴミで汚れた桂川を示し、クリーンアップの必要性を訴えた。

清掃活動による河川の美化活動を通じて、美化意識やマナーを向上し、ゴミを捨てない、ゴミの持ち帰り運動に発展させることを目的として活動している。

第1回目は26団体450名の参加、第3回目の今年は、102団体2800名の参加者を数えた。

地域のつながりの大切さを痛感、桂川の兩岸を人の手をつないで輪を作りたい、全国にクリーンアップの灯がともることを願ってやまない。

[質疑応答]

Q. 川ごみの最終処分方法は？

A. 国土交通省、地方自治体、等事前に打ち合わせが必要。

[統括]

地域のコミュニティーが大切、互いを認め、尊重する姿勢、互いの背景を知り、積極的に参加することが人の輪を創り、価値観を共有できる基礎となる。いま少しそれぞれの地域で頑張ろう。



第1討論会 質疑応答の様子

◆第2討論会 「食と安全を考える」

～課題点・オイルピークと食料自給、地産地消、安全衛生など先進事例～
食の文化や衛生管理といった食に関する包括的な話題を紹介し、食の安全について考察を行った。

<コーディネーター：NPO法人エコネット近畿 常任理事 西田 生>

[講師の発表]

■「農の復活と食」

元大阪府立食とみどりの総合技術センター主任研究員 農学博士 森下 正博氏

- ・農は食の文化 歴史・伝統・文化の土壌
関西には京野菜と並んで、「浪速伝統野菜」がある。浪速野菜の復活に取り組んでいる。毛馬胡瓜・田辺大根・門真蓮根・泉州若ごぼう・吹田慈姑などが代表作物
- ・農は地産地消のかなめ、地域環境を護る産業
顔の見える安全・安心食として地産地消の牽引、伝統農は環境に優しく、作物に優しく、人に優しく、景観を護る産業でもある。
- ・在来品種を大切に、土地のDNAを繋ぎ、露地栽培で旬の食を推進、小規模な農事でも

小回り生産・小回り流通がある。

[質疑応答]

- ・有機野菜を個人で買えるお店照会と回答
- ・浪速野菜を売っている地域・お店の照会と回答
- ・浪速伝統野菜の種は手にはいるか否か照会



第2討論会の様子

■「食の安全・衛生管理」

株式会社大阪ステーションストア営業部管理課長 山田史夫氏

- ・レストランの加工・調理を中心に「衛生管理」の手法を多角的かつ丁寧に説明戴いた。
- ・我々の日常の食生活にも直結した講義だった。賞味期限・賞味期間の違い、キッチンの清掃から、冷凍冷蔵庫の正しい使い方、食器洗浄器の衛生的な使い方まで。

[質疑応答]

- ・食の衛生管理を民間で実践は素晴らしい。 (株)新大阪ステーションストア 山田氏
- ・食の安全管理は医食同源の諺があるごとき、人の生命にとって最優先の課題である。



◆第3討論会 「再生可能エネルギーを考える」

～太陽光発電買い上げ新制度とバイオ・エネルギー等～

持続可能な社会に向けたエネルギーの供給源・使い方について様々な具体例を提示し、再生可能エネルギーについての考察を行った。

<コーディネーター：NPO法人エコネット近畿副理事長 仲津 英治>

[講師の発表]

■「再生可能エネルギー 木質バイオマス」

NPO法人樹木・環境ネットワーク協会理事長 澁澤 寿一氏



第3討論会の様子

化石燃料など地下資源エネルギーを前提とした生活は早晚成り立たなくなる。山村の暮らしが、エネルギーと食糧を全て自然から得て、自立と自活で行なわれており（山梨県のある山村の例）、今後の参考になるとの紹介があった。

澁澤氏が13年間関わって来た岡山県真庭地域での木材のゴミを生かす木質エネルギーによるエネルギー自活の試みを例にとり、山村における生活の質を変え、山村を活性化する提言があった。生活の質を変えらるとは賃金など収入による生活から、生態系サービスによる心の安定を得る生活への変換である。

■「ツバルにおける太陽光発電プロジェクト」

関西電力（株）研究開発室エネルギー利用技術研究所主任研究員 磯 修氏

主に関西電力からの資金援助で建設された40kwの太陽光発電の実践例から、ツバルは日本のミニモデルと言えらるとの見解が示された。そして出力変動が激しい太陽光発電も小型のものを広範囲に設置し、補完する他の発電設備を組み合わせることにより、安定電源として使える可能性があるとの報告があ

った。

■「太陽光と太陽熱の活用—自宅でできる炭酸ガス半減」

NPO法人エコネット近畿副理事長 仲津 英治

自宅で自ら太陽光発電装置と太陽熱温水器を組み合わせ、併せ省エネ・省資源に取り組むことにより、一家3人の年間炭酸ガス発生量を2.5トン以下（日本家庭平均約5.4トン弱）と、日本家庭平易金より半減できた2009年の実績を示した。



[統 括]

- ① エネルギーの組み合わせが大事である。例として太陽光発電と木質エネルギー。また富山ではかつて小水力発電設備は一万数千か所も実存していた時代があったことから、古の智慧を生かすべきだ。
- ② エネルギー確保等も楽しみながら行なうことが、大事である。具体的には東近江市で太陽光発電、風力発電、雨水の貯水活用している家庭では、照っても、降っても、吹いてもエネルギー資源が得られるので楽しんでいる事例の紹介があった。

13:30～ 第2部 基調講演 (13:30～14:50)

「エベレストから見る地球」～環境を考える～

講師 三浦 雄一郎氏

(エベレスト最高齢登頂者、プロスキーヤー)

自らのエベレスト登頂の体験映画(約10分)を紹介した後、三浦 雄一郎氏は、高山に於いては、酸素が少なく、高度5,000メートル以上では哺乳類が住めないという視点から、地球温暖化、地球環境問題は酸素不足をもたらし、我々の将来を危うくする可能性



が高いと述べた。また地球温暖化が進んで氷河が溶けだし、岩肌の露出した高山が増え、結果貴重な水源である氷河が消失する過程で大洪水をもたらされ、さらに深刻な水不足が生じる可能性も言及した。高山という過酷な自然を体験した同氏ならではの講演であった。



三浦雄一郎氏

15:00～ 第3部 パネルディスカッション (15:00～16:30)

「環境政策に関する行政・企業・NPOの協働を考える」

[パネリスト] 奈良県副知事 奥田 喜則氏

大和信用金庫理事長 郡山 尚氏

NPO法人エコネット近畿理事長 山本 光二

<コーディネーター: NPO法人エコネット近畿常任理事 吉田 浩巳>

奈良県の「奈良県協働推進指針」(概要版、平成22年(2010)3月版)が、参加者に配布され、奥田 喜則氏から行政・事業者・NPO、教育機関、自治組織の協働が動き出した現状、方向性の話があった。郡山 尚氏からはCSRの一環として大和川の水質が改善されると大和信用金庫の金利を0.5%～1.0%上乗せする大和川定期預金を設定し、汚染源で

ある家庭排水削減を呼び掛け、成果を上げつつある実例の報告等があった。大和川定期預金はマスコミにも取り上げられ、環境各賞を受賞、相乗効果を挙げている由。山本 光二からは、各NPOが色んな団体との連携を行なう中核を担い、積極的に環境改善に取り組もうと提言があった。

吉田 浩巳からは、セブン-イレブンみどりの基金によるドイツ研修の成果として、環境先進国として何故ドイツが評価されるのかの紹介があった。それは行政による仕組み作り、制度造りが原点にあること、また行政が実績のある環境NPOを活用している点を挙げ、日本での改善を要望したい旨発言があった。



左から奈良県副知事 奥田氏、
大和信用金庫 理事長 郡山氏、
エコネット近畿 理事長 山本

展示スペース (11:00～17:00)

会場後方に設置した展示スペースでは、講演の合間に来場者が見学できるようにしており、にぎわいを見せていた。

- 「シロアリの巣の展示」(株)ハウスドクター様
- 「三菱電機 照明器具の紹介」三菱電機(株)様(株)タチバナクリエート様
- 「『環境に優しいバス』貸切バスの紹介」ZIPANG (ジパング) (株)様



照明機器の紹介
三菱電機(株)様



シロアリの巣の展示
(株)ハウスドクター様



環境に優しいバスのご案内
ZIPANG (ジパング) (株)様

以上